

企画協力：植松孝悦

静岡県立静岡がんセンター乳腺画像診断科兼生理検査科部長

乳がん診療がゲノム医療へとシフトしていく中で、検診や画像診断のあり方も今後変わっていくことが予想されます。個人の価値観を考慮した治療方針の決定は、次世代の乳がん診療で重要とされ、乳がん検診と乳房画像診断も Informed choice を念頭において画像や検査を選択することで、真の乳がんにおける precision medicine の実現化が可能となります。本特集では、次世代乳がん検診と次世代乳房画像診断の項目に分けて、これから活躍が期待される新しい乳がん診断技術に焦点を当てます。

## 適切な情報提供に基づく Informed choice による 次世代乳がん検診と乳房画像診断

植松 孝悦 静岡県立静岡がんセンター乳腺画像診断科兼生理検査科

インナービジョン8月号恒例の特集企画である「Women's Imaging」において、2021年は「Informed choice を念頭においた次世代乳がん検診 / 乳房画像診断への大いなる期待」と題して、個人の乳がん発症リスクに基づく最適化された乳がん検診と精密医療を実現するための新しい乳房画像診断技術、その臨床応用の最新動向を取り上げることにした。近年の乳がん診療ではサブタイプごとに治療方針が決定されるようになったが、今後は乳がん遺伝子に基づくゲノム医療へとシフトしてい

くと考えられ、乳がん検診や乳房画像診断のあり方もその変化に呼応して改革されるべきである。特に、人工知能 (AI) の発展やリキッドバイオプシーなどの技術が乳がん臨床に普及していくことが予想され、これまでよりもより早期に、より正確な乳房画像診断が可能となる時代の到来が期待される。さらに、乳がん検診については、乳がん発症リスクを念頭においたリスク層別化乳がん検診の概念が世界的に普及しつつあり、リスク層別化による乳がん検診は不利益の少ない、対費用効果に優れる

乳がん検診になると考えられている。また、次世代の新しい乳がん医療機器として、超音波CT装置やマイクロ波マンモグラフィ、光超音波イメージングといった新規技術を活用した次世代乳房画像診断技術も研究開発が進められており、今後の乳がん検診と乳がん診療に新たな知見をもたらす可能性がある。もちろん、非造影乳房MRIや超音波フュージョン技術など、すでに臨床実装されている新技術を理解し、適切に使用することも重要である。

新しい次世代乳がん検診 / 乳房画像診